

# 平成26年度 事業報告

## 障害児入所施設あさひが丘学園 障害者支援施設あさひが丘 地域生活支援センターあさひが丘 ガーデンキッズマルヤ・セルク・トリア

### 1. 平成26年度の重点目標に対する事業報告

平成26年4月に障害程度区分から障害支援区分への見直しやグループホームとケアホームの一元化、重度訪問介護の対象拡大などが行われた。また、平成27年4月には報酬改定と第4期障害福祉計画の策定が行われた。今後の制度改正の検討状況を見極めながら、昨年度は下記の事項を重点目標に掲げ事業を推進した。

#### (1) 組織間連携の充実を図る

- ① チーム内、チーム間連携は年間を通して話し合い、連絡ノートの活用や、改善策として他チームの良い部分を取り入れ、一定の成果がでた。また、グループホーム職員においては、チーム内の情報共有を図るため、連絡ノートの活用に合わせ携帯アプリを使用しグループ内でタイムリーに情報を共有できるように努めた。しかし、不十分な部分も見受けられたので引き続き、連絡方法の定着や職員個々の連携に対する意識向上が必要である。部門間、部署間については、共通行事など十分な情報共有が図れないことがあった。
- ② チーム会議統一書式を作成し、協議事項については統一化を図ることができた。
- ③ 事業所間研修について、34名の職員が参加した。他部署の業務を経験することで、視野の広がりや自分の業務に対する気付きを得たと感じた職員が多く、職員の意識や資質向上の効果があった。全体的な職員交流については、新任職員歓迎会や暑気払い、忘年会などの機会を設け交流の機会を作った。

#### (2) 人材育成の充実を図る

- ① 今年度より職員の自発的な研修・見学の希望を把握し、それらを参考にして、全職員に年1回以上の何らかの研修、見学の機会を得られるようにした。研修については、45の外部研修会に延べ95人の職員を派遣した。外部施設への見学については13事業所に延べ48人の職員を派遣した。
- ② 新人職員の業務内容のスムーズな習得を図るために、新任職員と指導役の先輩職員とペアを作るチューター制度を採用し、計10組のペアを作った。業務上の配慮事項など現場で適宜相談や指導をおこない業務の振り返りをおこなうことで新任職員の育成には効果があった。しかし勤務シフト、配置部署の違いによっては十分に機能しなかったペアもあり、組み合わせについては配慮する必要がある。
- ③ 園内研修において、年3回、6名の職員がそれぞれのテーマについて実践報告を行った。各職員、普段の業務の取り組み事例を共有する機会を得ただけでなく、自身の業務の役割と在り方、振り返りとしても役立ち有効な機会となった。

### (3) リスクマネジメントへの取り組みを強化する

- ① 重大な事故などはなかったが、薬に係るヒヤリハットについては平成26年度/42件（平成25年度/32件）であった。大きな事故などに繋がっていないが、ヒヤリハットについては、事故の誘発要因となるので、来年度は、ヒヤリハットの内容を職員間でさらに有効活用し事故防止に努める。合わせて各部署の事故防止マニュアルの改訂を行う。
- ② リスクマネジメントについては、統括主任以上がリスクマネジメント研修（1名）、苦情解決研修（1名）、人権擁護研修（4名）に参加した。
- ③ 災害に備えての備蓄品については、情報集だけに終わっていた。来年度は、備品購入など具体的にすすめていく予定である。

### (4) 地域社会に向けての取り組みの充実を図る

- ① 児童発達支援センターにおいて、療育体験日は設けなかったが希望に応じ随時、体験・見学の受け入れを行った。保健センターが主催する総合発達相談会や親子教室にも積極的に協力し職員の派遣を行った。また、公開療育を行い関連のある行政・幼稚園・保育園への参加を呼びかけ非常に参考になったとの感想があった。
- ② 地域生活支援センター会議室を春山地区11班の会合で年間4回開放した。また、秋祭りに出演依頼した春山地区婦人会の踊りの練習会場として貸し出しを行った。今年度は地域貢献の為、秋祭りを実施し458名の来場があった。近隣の地域の方々には事前にチラシや食券を配布し、少しでも多くの方に足を運んで頂けるよう努めた。

### (5) 新事業の円滑な運営と新たな事業展開のための施設整備を行う

- ① 児童発達支援事業所ガーデンキッズトリアは、改修工事を平成26年3月に終え、同年4月から事業開始し、利用者も順調に増え着実な運営を行った。
- ② 新たなグループホームとんぼ丸（定員8名）の新築工事を平成26年4月に終え、同年6月より事業開始し着実な運営を行った。（事業費41,040,000円（税込））
- ③ 南九州馬事公苑の協力を得て、乗馬療法実施のための厩舎建築や馬場整備の設計を行った。平成27年度に工事に入り、同年10月より事業開始予定である。
- ④ 障害児入所施設の小規模グループケアの新築工事は県に施設整備の補助金申請を提出したが、残念ながら採択されなかったため、来年度も引き続き申請を行う予定である。
- ⑤ 教育棟の一部改築を行い、「ギャラリーあさひや ASAHIYA」を開設した。工事は平成27年2月2日着工し、2月28日竣工、引き渡しを受けた。（事業費6,048,000円（税込））

## 2. 通常の事業内容に関する事業報告

### 【障害児入所施設あさひが丘学園・障害者支援施設あさひが丘】

#### (1) 個別支援計画の作成

職員の個別支援計画作成能力を高めるために、4月に個別支援計画について園内研修をおこなった。5月から7月までの間に、個別支援計画作成のための個別研修を全ての直接処遇職員に実施した。また、11月～2月に月1回、個別支援計画事例検討会議を実施し延べ176人(1回平均44人)の職員が出席し、自己研さんに努めた。

#### (2) 日常生活支援

児童部：環境整備については、壁面作成の取り組みなど児童の生活空間を意識した取り組みを行った。感染症流行時期には、空気清浄機・加湿器を活用した。口腔衛生については、平成26年度7月より電動歯ブラシを導入した。

成人部：口腔衛生については、平成26年度7月より電動歯ブラシを導入している。皮膚疾患については定期通院を行い利用者個々に治療を行った。また、口腔内・皮膚疾患共に3～4ヶ月毎に写真をとり経過を記録に残しているが、現段階では大きな変化は見られない。

また、感染症予防として、予防接種、手洗い・嗽の徹底や冬期、空気清浄器・加湿器を居室や共有スペースに設置した結果、成人部については、インフルエンザ感染者は一人も出なかった。

入所共通：利用者自治会については、6回実施。利用者へ各種行事の説明やバイキングメニュー、コンサートリクエスト曲等を募り利用者の要望を取り入れることができた。

#### (3) 日中活動支援(生活介護事業)

日中1科(生産活動系)は常時利用者1人当たり51,355円(年額)の工賃支給を行った。日中2科(創作活動系)は常時利用者1人当たり3,000円(1回)の工賃支給を行った。日中3、4科においては、創作品販売の利益をクリスマス等の行事月に余暇費として利用者に還元した。作品の販売、展示スペースとして、陶芸室横を改装しギャラリーをオープンしている。日中4科は、PTに実際のリハビリを見てもらい機会を(月2回)設け指導、助言を受けながらより利用者の現状に合ったリハビリを実践した。運動プログラムについては、計画的な実施ができておらず運動量の確保には至っていない。

#### (4) 余暇活動支援

児童部：平日の導線を見直し夕方の時間帯に宿題や外で遊ぶ時間帯を設けた。休日には、利用者の要望を聞き取りながらドライブやお菓子作りなどに取り組んだ。

成人部：余暇計画表を作成し、休日は日勤者を中心に、園内カラオケや製作活動、レクリエーションを行った。個別外出(ぱ～そん)は全利用者実施できた。

生活介護：買物外出、ランチ外出を実施している。各日中科単位での外出、余暇プログラムも実施した。年度末の慌ただしい時期の実施については控え、年間を通じて計画的に実施することが課題となった。

(5) 健康・衛生に関する支援

健康管理などは、医療機関の協力を得ながら早期対応に努めた。検査・検診等は、内科検診（2回）、レントゲン検査（1回）、20歳以上の利用者の健康診断（1回）、訪問歯科診療（10回）実施した。また、栄養ケアマネジメントを実施し、モニタリングすることで利用者の体重管理なども徐々に成果が出ている。

(6) 地域生活支援

短期入所について、児童部は、週末を中心に1日に2～3人の利用があった。成人部については、平日から週末にかけて利用の多い状態である。特に、週末については5～6人の利用があった。

日中一時支援については、通所利用者を中心に1日3～4人程度の利用があった。

(7) 人権擁護活動

平成26年4月に全職員、人権侵害ゼロへの誓いの署名と掲示を行った。また、直接支援職員100名を対象とした人権侵害防止チェックリストの実施。平成27年2月、全職員を対象とした人権擁護研修（チェックリストの結果報告等）を行った。平成25年度と比べ若干ではあるが改善傾向である。

(8) 自立生活支援

昨年度は、児童部から障害者支援施設（4名）、グループホーム（6名）、家庭復帰（1名）、医療機関（1名）へ移行した。児童部の18歳以上での在籍者は3名である。また、障害者支援施設を希望している利用者は、第1希望は、あさひが丘であるが、第2希望が決まっていない状態であり個別相談の機会を設け、希望に応じて施設見学を実施した。高等部入学と同時に、個別相談、学校での教育相談の機会を活用し、本人と家族の希望を聞きながら移行先について計画的に進めることが必要である。

障害者支援施設について、地域生活が可能な利用者については、グループホームへの移行（4名）をおこなった。合わせて入所受け入れ（4名）をおこなった。

【地域生活支援センターあさひが丘】

(1) こどもサポートセンター我路

児童発達支援利用率112%、放課後等デイサービス利用率102%、保育所等訪問支援実績17件。児童発達支援では公開療育・お泊り療育、放課後等デイサービスでは保護者会の開催等新たな行事への取り組みも行った。

(2) ワークショップあすもね

就労継続支援B型については、主に室内作業（各種箱折り、封入作業等）の作業量を増加することで、平均工賃8,029円。目標にしていた平均工賃10,000円を達成することはできなかった。利用者定員について8月に20名定員となり、11月からは利用率100%を維持している。

(3) ヘルパーステーションとわ

利用者の希望に沿うようにヘルパーの配置を工夫し対応した。居宅介護（主に通院介助）については、グループホーム新規入居者が増えたことで、6月以降に増加して

いる。行動援護はサービスの変更や高等部卒業などの理由で利用が減り、減少分は移動支援が若干の増加になっている。

(4) グループホームあさひが丘

6月にとんぼ丸（男性8名）が開所した。生活介護や就労先の事業所との連携を図り、対応にあたった。地域との交流については、春山地区運動会や草刈り、総会等に参加したが、十分な交流が図れたとは言えなかった。

(5) あさひが丘相談支援センター

今年度の利用実績として、特定相談支援417件、障害児相談支援284件であった。相談支援員を新たに2名増員し対応してきたが、利用件数が増加したことで依頼があった相談を全て受けることはできなかった。平成27年度は鹿児島市基幹相談センターに1名出向している。

【ガーデンキッズマルヤ・セルク・トリア】

(1) ガーデンキッズマルヤ

平成23年4月開所以来、月ぎめ・一時預かりとも利用者が伸びず補助金もほとんどない状況での運営であったが、今年度をもって閉園とする。月ぎめでの保育を利用していた7名の子どもたちも幼稚園や保育園へと行先が決まり、閉園に対する混乱はみられなかった。

(2) ガーデンキッズセルク

今年度の児童発達支援事業利用率112%・保育所等訪問支援38件と多くの方に利用していただき、併行通園が多い関係で保育所・学校・幼稚園への訪問にも力を入れた。待機者や見学・体験希望者も多いため平成27年度より定員を10名から20名に増員して対応する。

(3) ガーデンキッズトリア

今年度の実績として、児童発達支援事業利用率114%・保育所等訪問支援11件。放課後等デイサービスについては、平成25年度に児童発達支援を利用していた小学1年の児童4名のみの登録であった。平成27年度は登録者が20名に増える予定であり、活動内容も充実したものとなるよう職員の資質の向上を図る。

3. その他の事業報告

(1) 職員研修・資格取得等

①園内研修

月	テーマ	担当
4月	個別支援計画の作成について	八反田（支援課長）
5月	交通安全について	前田卓（地域統括）
6月	我が国の障害者福祉施策の在り方について	水流純 統括施設長

7月	実践報告① ・乳酸菌飲料を活用した排便コントロール ・リハビリテーションへの取り組みについて	木場（1寮チーフ） 隈元（日中4チーフ）
8月	落穂会 児童発達支援事業について	水流か 統括副施設長
9月	実践報告② ・放課後等デイサービスの現状と課題について ・ガーデンキッズ トリアの現状と課題について	別府（我路チーフ） 北園（トリアチーフ）
10月	健康管理について「インフルエンザ、ノロウイルス」	佐野・三浦（看護師）
11月	栄養管理について	穴野（管理栄養士）
12月	防災について「火災」	宇都（防火管理責任者）
1月	実践報告③ ・トイレトレーニングについて ・作業から仕事へ ワークショップ「あすもね」の取り組み	上之園（C棟サブチーフ） 室屋（あすもねチーフ）
2月	人権擁護について	羽月（成人統括）
3月	「生まれてきてよかった」を支えるために	水流純 統括施設長

## ②テーマ別研修

月	テーマ	講師
5月	障害者施設における リスクマネジメント	AIU 保険株式会社リスクコンサルティング部 相田 彩子 氏
12月	福祉で描くコミュニティ・デザイン	社会福祉法人 仏子園 理事長 雄谷 良成 氏

## ③外部研修

全国知的障害関係施設長会議をはじめとする計45回の外部研修会に延べ95人の職員を派遣した。月例職員会議において参加職員の研修報告を行い、また、研修報告書を各部署に配布し研修内容の共有化に努めた。

## ④通信教育・資格取得

平成26年度は知的障害援助専門員通信教育を5名の職員が受講し、知的障害援助専門員資格を取得した。全職員の資格取得状況は以下のとおりである。

【有資格者数】（平成27年4月1日現在）

資格名	人数	資格名	人数	資格名	人数
社会福祉士	7	ホームヘルパー	22	知的障害援助専門員	17
介護福祉士	15	介護支援専門員	3	知的障害者福祉士	1
保育士	55	看護師	2	養護学校教諭	1
社会福祉主事	25	管理栄養士	1	作業療法士	1
臨床発達心理士	1	理学療法士	1	言語聴覚士	1
相談支援専門員	7	サービス管理責任者	16		

(2) 実習・研修の受け入れ

下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- ① 保育士実習 21名 (大学2校・短大3校・専門学校1校)
- ② 社会福祉士実習 5名 (大学1校・専門学校1校)
- ③ 介護福祉士実習 17名 (専門学校1校 一日のみ)
- ④ 福祉体験実習 35名 (高校1校・中学校1校)
- ⑤ 臨床実習 56名 (専門学校1校)
- ⑥ 介護等体験実習 4名 (1高校)
- ⑦ 特別支援学校現場実習 19名 (3校)
- ⑧ 外部職員研修 121名 (6施設・1機関)

(3) 各月初日の入所・通所利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童部 (契約)	20	20	14	14	14	13	12	12	12	12	12	12	167
児童部 (措置)	18	19	18	18	18	18	18	18	18	18	17	17	215
成人部 (入所)	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480
成人部 (通所)	34	36	33	33	40	40	40	40	39	34	39	38	446
合計	112	115	105	105	112	111	110	110	109	104	108	107	1308

\* 児童部 (契約入所) 利用率 58.1% 新規入所 2名 退所 12名

\* 成人部 (入所) 利用率 100% 新規入所 4名 退所 4名

\* 生活介護 (入・通所) 利用率 103.3% 新規利用 9名 退所 3名

(4) 在宅サービスの利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
短期入所 (児童)	57	52	62	72	81	47	43	39	45	31	45	46	620
短期入所 (成人)	185	204	188	173	182	167	195	200	168	150	146	191	2419
放課後等デイ (我路)	410	337	404	461	453	415	443	405	424	383	400	470	5005
児童発達支援 (歩路)	436	428	475	470	425	480	513	391	435	412	411	534	5410
児童発達支援 (セルク)	244	250	279	290	255	279	306	267	270	254	249	270	3213

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童発達支援 (トリア)	201	214	234	242	220	248	257	213	232	210	220	269	2760
放課後等デイ (トリア)	13	14	13	11	14	12	11	11	11	11	12	11	144
保育所等訪問 支援 (歩路)	0	0	6	1	0	0	1	3	0	1	3	2	17
保育所等訪問 支援 (セルク)	0	0	4	3	2	7	0	6	3	6	6	1	38
保育所等訪問 支援 (トリア)	0	0	1	0	0	1	1	2	2	1	2	1	11
居宅介護	28.0	23.5	40.0	51.5	44.0	35.5	47.0	43.0	43.5	38.0	39.5	45.3	479.0
行動援護	100.0	92.0	90.0	115.0	87.0	103.5	93.0	80.5	104.0	84.0	80.0	112.0	1141.0
移動支援	66.0	95.5	75.0	100.5	59.5	83.5	81.0	72.0	88.5	78.0	71.5	59.5	930.5
日中一時支援	1057	1084	1169	1387	1314	1447	1375	1494	1279	1148	1167	1227	15148
就労B	351	364	387	406	344	371	398	419	385	429	412	447	4713
グループホーム	750	766	989	1016	988	990	996	988	989	982	923	1019	11396
相談支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画相談 (児童)	50	47	47	46	35	39	23	26	19	23	13	48	284
計画相談 (成人)	27	28	22	32	25	25	15	16	11	19	16	49	417

\*各サービス実績の単位

○短期入所・グループホーム(日数)

○放課後等デイ・児童発達支援・保育所等訪問支援・就労B・相談支援(件数)

○居宅介護・行動援護・移動支援・日中一時支援(時間数)

\*各サービスの利用率・対前年比

○短期入所 利用率 94.8% 対前年比 95.6%

○放課後等デイサービス我路 利用率 102% 対前年比 116%

○放課後等デイサービス(トリア) 利用率 6%

○児童発達支援(歩路) 利用率 112% 対前年比 111%

○児童発達支援(セルク) 利用率 112% 対前年比 104%

○児童発達支援(トリア) 利用率 105%

○保育所等訪問支援(歩路) 対前年比 288% (前年利用件数 6件)

○保育所等訪問支援(セルク) 対前年比 233.5% (前年度利用件数 17件)



- 保育所等訪問支援（トリア） 前年実績なし
- 居宅介護 対前年比 191%
- 行動援護 対前年比 99%
- 移動支援 対前年比 99%
- 日中一時支援 対前年比 134%
- 就労継続B 利用率 134%
- グループホーム 利用率 95%

(5) 各サービスの利用契約者数(平成27年4月1日現在)

サービス名	児童	成人	合計
入所（契約）	20	40	60
入所（措置）	18	0	18
入所小計	38	40	78
生活介護（通所）	-	50	50
短期入所	115	95	210
居宅介護	24	43	67
行動援護	14	8	22
日中一時支援	107	70	177
移動支援	34	67	101
就労継続支援B型	-	24	24
児童発達支援（歩路）	41	-	41
児童発達支援（セルク）	90	-	90
児童発達支援（トリア）	27	-	27
放課後等デイサービス（我路）	81	-	81
放課後等デイサービス（トリア）	13	-	13
保育所等訪問支援（歩路）	42	-	-
保育所等訪問支援（セルク）	54		
保育所等訪問支援（トリア）	22		
グループホーム	-	34	34
相談支援	199	328	527
在宅小計	863	719	1464
合計	901	759	1542